

先進地から学ぶ 議会運営委員会

研修報告

日程 7月5日から6日
研修先 福岡県粕屋町

議会基本条例の取組

粕屋町は福岡県の北西部に位置し、博多駅まで約10分、福岡空港まで10分と交通の便利がよく、面積は11・12平方km、人口4万2千人で、人口の伸び率は県内1位である。

議会基本条例の制定にあたり、平成22年6月議会において議会活性化特別委員会を設置し、検討を重ねた。23年8月に骨格をつくり、12月に最終案を作成し、町民説明会

を行うとのことであった。町民の委員会傍聴については、部屋の広さの関係上委員長判断としており、請願の紹介議員については説明を求め、責任を持って対応している。特に一般質問については、質の高い質問に徹し、議員の資質の向上に努めているとのことだった。また、議会広報誌への主な議案に対する各議員の賛否結果一覧を賛成・反対・退席・欠席と掲載している。

研修先 佐賀県有田町

議会活性化の取組

有田町は佐賀県の西部に位置し、面積は65・8平方km、人口2万1千人である。

委員会傍聴は条例により委員会の許可制。また、行財政改革を議会が率先して取組み、議員発議で22議席を16議席にした。

議会活動活性化特別委員会を設置し、本来の二元代表制として執行機関の監視とチェック機能の強化、さらに住民の意思

の反映を目指している。とくに議員定数をはじめ議員報酬や政務調査費、費用弁償、一般質問のあり方、議会基本条例への取組みや開かれた議会とするために情報公開を基本としている。また、区長会、老人会、青年会議所、建設業協会、などの各種団体と懇談会を行ったり、中学生による子ども議会の開催等も行っている。



福岡県粕屋町議会

先進地から学ぶ 議会広報編集特別委員会

研修報告

日程 8月28日から29日
研修先 東京都

全国町村議会議員 会主催広報研修会 に参加

全国から集まった広報担当の議員とともに、議会広報の編集の技術、広報の考え方、注意点、また全国の議会広報を参考にした実践的な講習を受けた。

分かりやすい文章表現

単に自分たちの言いたいことを言うだけでなく、読み手がその文章を読み

ながらどのように感じているか推測しながら書く態度が必要である。

議会広報の企画・写真・デザイン

短時間で読み手が要点を理解できる工夫が必要である。そのためには簡潔でわかりやすい見出し、目を引き読んでみようかという紙面構成、タイトル、写真の使用と配置の工夫が大切である。

広報活動における著作権

著作権とは、思想または感情を創作的に表現したもので、文芸・学術・美術または音楽の範囲に属するものと著作権法で規定されている。

議会広報で注意すべきことは、他人の著作物を引用する場合は、引用先の内容を記載する必要がある。

人物の写真を撮影し公表する場合は、本人の承諾をもらう必要がある。このほか、全国から応募した議会広報誌のクリ

ニックがあり、実物を使つての講評は非常に参考になった。

最後に、広報誌は何度も手にとって簡単に見直しすることができるという利点がある。また、過去の記録として、その時々々の議会への問題点を簡単にチェックすることができるといふ、インターネットではできない大切な要素があるという話があった。

参加した広報委員一同今後さらに町民の皆さまに親しまれ、読んでいただける広報誌になるよう努力していきたいと思うところである。



全国の議員が広報研修

全員研修報告

北海道栗山町議会改革

議会事務局及び議長等の説明と質疑により、栗山町の議会改革は次のとおりである。

●インターネットによるライブ中継及び町内テレビ、再放送システムの導入。町民と情報を共有し、常に正確なものを発信し批判を受ける。

●提案権、修正権等、住民の目線で行動する議会に変化していく。必要であれば、住民のみなさんを参考人として招致することもある。

●政務調査費の導入による、常任委員会の視察は廃止。

●議会報告会の実施。町民の中に入り、積極的に意見を聴き、当局提案が町民が求めるものを審査する。議会議員間の討論にも発展。

●議員の活動に対して町民の評価が的確になされるよう、重要な議案



栗山町議会

●議員が地域に向き、議会活動の状況を報告し、批判や意見、町政に対する提言などを聴く。毎年1回の開催。

●町長等の反問権を付与し、質問の争点を明確にする。

●重要な計画等（基本構想及び基本計画、都市

計画マスタープラン、住宅マスタープラン、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、次世代育成支援行動計画）を議決事項とした。

●議員と町民が自由に意見交換するために一般会議を設けた。

●議会の方向性を明確にし、議会の透明性を確保するために正副議長の選出に当たって、所信表明の機会を設けた。

●大津町においても、これらの改革を参考に、学習会や検討会を重ねていく必要がある。

旭川市障害者福祉センター

この施設は障がい者団体の要望で建設され、北海道の相談支援関係機関もこの施設に集積されている。障がい者や高齢者、リハビリ中の人、健常者が絶えず、日常的に接する、いわゆるノーマライゼーションの精神に満ちた施設である。

平成17年度から指定管理者制度を導入し、NPO法人旭川障害者連絡協議会に委託している。この協議会は市内18の障がい者団体が構成され、清掃などの管理のほか、生活サポート等の事業を行っている。

建築費は約26億3300万円。

入場者数の推移は平成22年度が13万2502人、うち障がい者7万1918人、一般6万584人であり、初年度の14年度を除いて安定した利用状況である。

利尻富士町「地域資源の再生と活力ある島づくりプラン」

地域の資源である日本名水百選に選定された「甘露泉水」と廃校校舎を再生させ、地域の起爆剤として会社を設立。

当初は町内3社が運営していたが、現在は神奈川県川島の会社が買収し、「リシリア」というブランドで売り出している。

経済的・社会的効果として新規雇用5名、年間2千700万円の生産を目指している。

利尻島は340年前に人が住むようになり、利尻町と利尻富士町の2つの町からなっており、昭和30年までは二シシ漁で栄えたが、今は昆布、ウニ、あわび等が中心である。近年は漁業も厳しい状況である。

観光客も平成15年度は27万人いたが、昨年は17万人と落ち込んでいる。人口も昭和30年には2町合わせて2万人いたが、現在は5400人に落ち込んだ。

このような状況を克服するために漁業者募集による東京をはじめ各県からの5名の移住や、「リシリア」などのアイデアを工夫した島づくりがされている。

稚内メガソーラー！宗谷岬ウインドファーム

大規模な太陽光発電の出力変動が電力会社の系統に影響を与えないよう抑制コントロールの為、蓄電池に貯蔵し、必要な時に放出するシステムの実証研究がなされている。

事業費70億円、一般家庭1700世帯分を出力。ソーラーパネルは多くのメーカーが採用されており、ホンダソルテックのパネルも使用されていた。

宗谷岬ウインドファームは単一風力発電所としては日本最大。設置基数57基、事業費120億円、総出力5700kW。平成17年11月竣工で稚内市の70%の電力をまかなえる能力を有する。